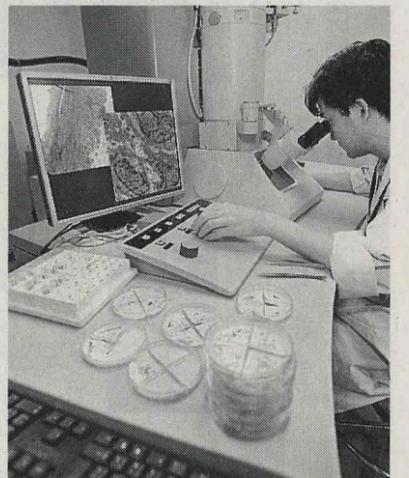


らびプラス

漢方に科学の光を当て、現代医療に生かす試みが相次いでいる。日本東洋医学会は、有効性や安全性を科学的な手法で検証した論文を300本以上集めたリポートを公表。慶応大学医学部はコンピュータで蓄えた患者データを診療に役立てる問診システムを10施設に広げる。いずれも、漢方治療のエビデンス(医学的根拠)を医師や患者に分かりやすい形で示しており、漢方の普及に弾みがつくと関係者は期待している。

漢方に科学の光

患者データ集め分析



実験動物の組織片で漢方薬の効き目を検証する(茨城県阿見町のツムラ研究所)

高い研究論文を収集、評価するのが目的だ」と語る。治療現場でもデータの蓄積に向けた取り組みが目立つ。強い生体痛に悩み、仕事を休むこともあった都内の福祉職、高山栄子さん(34、仮名)は06年6月、慶応大学漢方医学センター(東京・新宿)を受診した。渡辺

現代医療への活用促す

賢治センター長が問診や脈診、腹診などで、「月経前症候群」と診断。当帰芍薬散(こうしやくやくさん)や五苓散(ごれいさん)などの漢方製剤を処方された。症状は1年ほどで和らぎ、仕事に支障がでることはなくなった。

どんな症状に効くか探るのが狙い」と語る。「システム」の精度を高めれば、患者一人ひとりに合わせて漢方を処方する診断支援のツールになる。患者自身が通院のために治療効果をグラフで確認でき、患者主体の医療にもつながる。「初めは漢方で治るか?」半信半疑だった」と語るのは、東京都日野市の副田龍男さん(81)。4年前、尿に血が混じるため近くの病院を受診したところ、「前立腺がんの疑いがある」と医師に告げられた。以前からかかりつけ医の石川友章・石川クリニック(同市)院長に相談、処方された補中益気湯をベースに21の生薬を入れた漢方を服用したところ、症状が徐々に改善。「体調が徐々に良くなり、体調がよい状態が続いている」という。石川院長によると、同クリニックは年間約1000人が受診。「ほぼすべての科の患者に及ぶが、最近はこの病やアトピー性皮膚炎の患者が目立ち、不妊の相

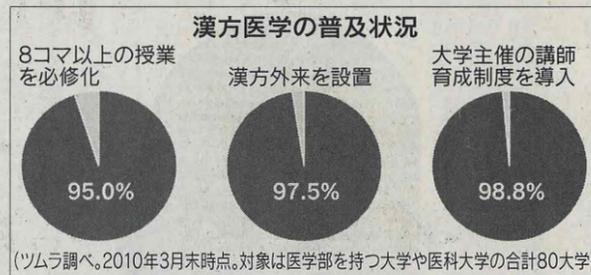
電子版の「ライフ」セッションでもオリジナルコラム「患者は動く」を掲載しています。業界最大手のツムラも科学的検証を進める。同社は西洋薬で治療が難しい疾患に高い効果を発揮する漢方薬を「育薬処方」と呼び、04年以降、これらの効果の科学的解明に力を入れ、茨城県阿見町のツムラ研究所で研究に取り組んでいる。長・短所の認識を

その一つが、胸焼けを感じる「非びらん性胃食道逆流症」に対する「六君子湯(りっくんしとう)」の作用メカニズムの解明。胃酸が食道組織を傷つけてしまうのが原因だが、胃酸の分泌を抑える西洋薬が効きにくい患者でも、六君子湯は食道組織を回復する効果が動物実験で推測されており、今後、作用の仕組みを詳しく検証する。

ただ、「漢方への国民の理解はまだまだ足りない」(業界関係者)のが実情。例えば漢方薬は効果が「緩やか」というイメージが根強いが、安易な利用は禁物だ。90年代には、肝炎の治療に使う「小柴胡湯(しょうさいことう)」とインターフェロンの併用で死亡例が相次いだこともある。専門家からは「進み始めた検証の成果を国民に還元し、漢方の長所と短所、有効性と限界について、患者と医師が認識を共有しながら使っていく姿勢が求められる」との指摘が聞かれている。(新沼大、編集委員 木村彰)

がん、循環器系、呼吸器系など21の傷病領域ごとに分類、それぞれに漢方製剤の臨床試験の概要が、目的、研究方法、参加人数、安全性に関する評価、主な結論、評価者のコメントなど標準化した項目(こと)にまとめられている。患者にも理解できるように平易な言葉で作成しており、学会ホームページでも公表している。特別委員の津谷喜一郎委員長(東京大学大学院薬学系研究科特任教授)は「国内では漢方に関するRCTが年間20ほど実施されているが、手法が不適切だったり症例が少なかったりする例も少なくない。同レポートは、エビデンスのレベルの

有効性検証論文を集積



ツムラによると、医学部を持つ全国80の大学や医科大学のうち78大学が漢方外来を設置。医学教育で漢方のコアカリキュラムが掲唱され、大学卒業までに8コマ以上の授業を必修化したのは76大学に上る。「漢方は効くかどうかを議論する時代は終わった」。日本東洋医学会の寺沢捷年会長は強調する。「今後、質の高い臨床研究を積み重ねることで、漢方を使う医師がますます増えることが予想される。消化器手術後

医学教育でも高まる比重

での腸の動きの改善、糖尿病による神経症状の緩和、認知症の周辺症状改善などが漢方が使われる領域は広がりに広がっている」と語る。東京大学医学教育国際協力研究センターの北村聖教授は「科学的な根拠の蓄積が進んで漢方薬のステータスが上がり、若手が漢方薬を手掛ける意欲につながった。今後は若手にも科学的根拠を蓄積する研究にどんな参画してほしい。その結果普及が加速する好循環が生まれる」とみている。

患者の目

「てんかん」という病気を「存じだろ」か。私はこの脳神経系の病気に闘って30年になる。薬でコントロールし克服できる病気がたくさんある。私のように死を選んだ人すらいるという現実を知ってほしい。

てんかんの患者は全国で約100万人とされ、原因は出産時の障害など先天的要因、交通事故など後天的要因に分かれる。症状が多岐にわたるのが特徴で、知的障害を併発する重度のケ

NPO法人 土屋 豊和氏 ①
「桂の樹」理事長



ースから、日常生活にほぼ支障はないが年1、2回けいれんなどの発作を起す。軽度なケースまで様々だ。私は4歳で初めてけいれん発作を起した。総合病院の診断は「難治性のてんかん」。小学校入学後も発作は止まらず、ある友達はいじめられ、倒れる子とは遊んではい

偏見多い「てんかん」

てんかん、とよかず 1975年神奈川県生まれ。出産時の障害から4歳でてんかんを発症。高校在学時のボランティア体験を機に福祉の道を目指す。2000年仏教大学社会学部卒業。07年にてんかん患者の自立支援を目指す特定非営利活動法人(NPO法人)「桂の樹」を設立した。

段と激しくなった。主治医の田中正樹医師(現田中神経クリニック院長)からは睡眠不足と薬の飲み忘れだけが原因だと注意された。両親は、夕は赤のマジックで薬袋に目印を書いてくれたが、それも守らなかった。成人後、なぜ怒らなくなったか両親に尋ねた。発作やいじめに苦しむ私を見てきた両親は、色々なことがしたい年ごろなら好きなことをさせようと思ったという。外で発作が起きて打ちどころが悪くて命を落とすことも受け入れる、と。見捨てたのではなかったと初めて知り、涙が止まらなかった。

生活面「医療」の記事やコラムに関するご意見、情報をファクス(03・6256・2774)か電子メール(iryuu@tokyo.nikkei.co.jp)でお寄せください。

フランスパン職人

フィリップ・ビゴさん

「もしめてかしオースト相に就任ラードさ記者会見た。4歳てきた貧中央政界点に。両ことから国にした。豪州初て200前首相をな行政手補」の呼拳を控えッ氏の逆や、派閥一気に入りさを見せしての初もある柔もあも多かモアで周せ持つ。いたら、